

静岡縣近代史研究会

会報

5月
2025年10日
月刊第560号

< 5月例会レジュメ >

静岡市歴史博物館企画展

「明治維新と静岡 徳川慶喜、家達と旧幕臣たち」

青木祐一

企画展「明治維新と静岡 徳川慶喜、家達と旧幕臣たち」には、「静岡にとっての明治維新」という意味が込められている。明治維新という日本史上重要な政治・社会的変革は、静岡にとって他の地域とは大きく異なる意味をもつ。

駿府・静岡は徳川家康以来、徳川家、江戸幕府と密接な関係を維持してきたが、明治維新の経験は、徳川家との縁を改めて結び直す機会となった。このとき徳川家に従って移住してきた旧幕臣たちは、現在の静岡の基礎を築く役割を果たしている。本企画展を通じて、徳川慶喜、家達そして旧幕臣、それぞれの立場から、明治維新が静岡へもたらしたもの、静岡における明治維新の意味について検討したい。展示構成は以下のとおり。

はじめに 明治維新と徳川家

慶応3（1867）年10月、15代将軍・徳川慶喜は政権を朝廷に返上。翌年正月の鳥羽・伏見の戦いに敗れて謹慎する。新政府によって徳川家は駿河府中（駿府、後の静岡）へ移され、徳川家を継いだのは数えでわずか6歳だった亀之助（家達）であった。

第1章 旧幕臣と駿府・静岡

駿河府中（駿府、後の静岡）へ移された徳川家に与えられたのは、駿河、遠江、三河の一部の70万石である。徳川家を継いだ家達に従って、多くの旧幕臣たちが江戸から駿府へ移住してきたが、その多くは無禄移住、つまり将来の生活の保障がない状態のままであった。

第2章 静岡藩と旧幕臣たち

徳川家達を藩主として、駿河府中藩（後の静岡藩）が成立する。静岡藩は旧幕府の優秀な人材を引き継いでさまざまな事業を展開し、最先端の教育を行った。その中には、重臣となった勝海舟や山岡鉄舟、商法会所を設立した渋沢栄一や、静岡学問所で教鞭をとった中村正直などが含まれている。一方、無禄移

静岡県近代史研究会会報 第560号（月刊）

2025年5月10日

非売品（非会員は印刷実費100円）

連絡先 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

静岡県立大学 国際関係学部 森山優研究室

電話：054-264-5386（直通）

年会費：4,000円（メール会員は3,500円）

ゆうちょ銀行払込口座：00850-6-54573

ホームページ：

<https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com/>